

# 報告

## 平成18年度全国専門学科「情報科」研究協議会（京都大会）

京都府立京都すばる高等学校教諭

青山 三枝子・尾上 妥理・藤末 邦政

### 1. はじめに

全国専門学科「情報科」研究協議会は、昨年度まで東京都立新宿山吹高等学校で実施されてきたが、今年度は、会場を京都府立京都すばる高等学校に移して開催された。平成18年3月に「情報科」は初めての卒業生を出した。そこで京都大会では、各校の成果や課題などを相互に情報交換し、他校の創意工夫を学ぶことをねらいとした。

### 2. 協議会報告

1日目 8月22日(火)

#### 開会の辞

#### 会長挨拶

全国専門学科「情報科」高等学校長会会長 石倉敏雄

#### 実行委員長挨拶

京都府立京都すばる高等学校長 的場敏信

#### 来賓祝辞

京都府教育庁指導部 指導部長 宮野文穂

#### 生徒発表

#### 「アルゴリズムの学習とJavaプログラミング」

京都府立京都すばる高等学校

3年生の半年間で学んだJava言語を使って、自力でオセロゲームを完成させるまでの活動記録とデモンストレーション。アルゴリズムを考えることの大変さと重要性を実感した。

#### 「CG影絵プロジェクトで子供たちとコミュニケーション」

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

課題研究の一環として影絵プロジェクトを計画。元劇団の方を講師に招いたり、合宿をしたり、

幼稚園での発表に向けて奮闘する。皆でひとつのものを作る苦労と楽しさに気づく。

#### 全体発表

#### 「学校設定科目を活用した教育課程の編成」

東京都立新宿山吹高等学校

専門科目を、共通基礎科目から応用選択科目（システム系、コンテンツ系、情報科学系）、総合科目へと、個々の目標に応じて段階的に工夫をして配置している。科目間の指導内容の重複などの問題も学校設定科目を効率よく設定することで解決した。生徒間の技術格差が減るなどの成果もできている。

#### 「マルチメディア系の授業実践」

福岡県立嘉穂総合高等学校

アウトライ  
ンプロセス  
の活用やA4  
判1枚にまと  
める板書計  
画、実習時  
のレポート  
評価、TTの効



果的な実施方法など授業の工夫を紹介。教科「情報」の内容は教科横断的に役に立つ内容であり、それを教える授業技術は、「情報」に縛られるものではないとの実践結果を発表。

#### 「情報科学科の成果と課題」

京都府立京都すばる高等学校

「オブジェクト指向とJavaプログラミング」を題材に、プログラミングスキルや資格だけでなく、プレゼンテーションやコミュニケーション能力な

ど、授業実践で生徒と教員が得たものと、それらを今後一層レベルアップするための課題を整理。進路指導では、数々の試みと一期生の成果や課題を報告。

#### 意見交流会（パネルディスカッション）

##### 「情報科」生徒の進路実現に向けて

###### —進路指導・高大連携—

県内に情報関連企業が少なく県外に求人を求める。県立大との高大連携を推進している。

進学がほとんど。AO入試に焦点を絞っている。大学や専門学校と連携も行っている。

まだ卒業生を出していないが進学を目指したカリキュラムを組む。AO・推薦入試がメイン。

アピールできるものがないと資格だけでは不十分。オープンキャンパスには生徒と教員で参加。

AO、推薦での合格が多いが、一般入試にもチャレンジできる生徒を育てたい。1年数学と1・2年英語は必修補習。

大学からの要望も重要。例えばオートマトンには数学の知識が必須のように数学嫌いは駄目。

2日目 8月23日(水)

#### 分科会発表 1

##### 「情報システムの開発における授業実践」

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

PHP + PostgreSQLでデータベース連動のWebページ作成実習を実践。1・2年での復習を兼ねてプログラミング技術やWeb、データベースの知識を総合的に実践できる利点がある。

##### 「情報技術科 2年目を迎えて」

香川県立坂出商業高等学校

各科目の取り組み状況やカリキュラムの見直しについての報告。特色ある取り組みとしては、20時間の外部講師によるものづくり体験キャリア教育でキャラクタ開発とプロモーションを学ぶ。アルゴリズムではLEGOを活用。

##### 「IT人材育成プロジェクトの取り組み」

岐阜県立大垣商業高等学校

県のスイートバレー構想の中で、サテライト教室「夢工房」を基盤に、IT起業家と日常的に交流

し、大垣商高セミナーや教材開発など様々な取り組みを行う。

#### 分科会発表 2

##### 「岐阜各務野高校 情報科について」

岐阜県立岐阜各務野高等学校

高大連携Eラーニングによるデジタルアーキスト概論の遠隔授業や、CD起動型Linuxを使用した学習支援パソコンの利用などの取り組みを行っている。

##### 「玉野光南高校 情報科について」

岡山県立玉野光南高等学校

2年生よりタイプ別の学習を行い、タイプに応じた資格取得や統計グラフ、ポスターなどのコンクールに出展する取り組みを行う。また小論文指導や基礎学力定着の取り組みなど、1年から力を入れている。

##### 「情報科 2年目の現状と課題」

奈良県立奈良情報商業高等学校

高度情報通信社会に対応できる専門的な知識・技能を身につけ、「情報管理」のスペシャリストの育成を目指す。県教委からの研究指定である修学旅行情報発信プロジェクト「いわれの道」のWeb作成などに取り組む。

#### 講演

##### 「学校における情報教育の充実に向けて」

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官

永井克昇先生

#### 閉会の辞

### 3. おわりに

今年度の研究協議会では、永井克昇先生に情報教育の充実に向けて御教示いただくことができたとともに、2日間で様々な情報交換を行うことができたと考えている（来年度は、鳥取県立鳥取湖陵高等学校で開催の予定である）。

